

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100449		
法人名	有限会社　ハートフルハウス		
事業所名	グループホーム　とどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736番地		
自己評価作成日	平成22年2月19日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.-kouhyou-kumamoto-jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目13番12-205
訪問調査日	平成22年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 自然に囲まれた景観のもと、常に花のある施設作りを行います。* 菜園で作った野菜を食事にしたり、犬を飼い日常生活動作が低下しても常に刺激のある働きかけをさせていただきます。 * 毎日の集団体操などで生き生きメリハリのある生活を送っていただいています。 * 職員一人ひとりが心をこめ「自立支援」「お一人々に寄り添う」心の通じ合うケアに努めています。 * 職員のスキルアップに努め認知症のケアに全力をそそぎます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町並みを一望できる山の中腹に建てられたホームは、デイサービスやケアホームをはじめ福祉・介護の拠点として、急速な高齢化社会への対応と地域貢献を目的に設立されている。のどかな風景と併せ、焦らない穏やかな関わり、食事や環境整備など職員の持ち味を生かした取り組みは、“入居者のこれまで”を大切に生活を支援し笑顔に繋がっている。入居者の状況に応じ浴室の手すりの位置の変更や新設、寛ぎのスペースとしてのウッドデッキの増設などハード面の改善は“入居者の今”を大切に取組みである。代表者の福祉に対する熱い思いと、経験豊かなホーム長や計画作成担当者をはじめ介護に対する真摯な思いの職員とのチームワークにより、今後も併設施設が地域介護を支えていく事が期待できる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの個性を尊重し自立生活を支援し、互いに協力し心の通いあうケア、温かくも守るケア地域と連携し交流を深めるケアを理念とし実践に繋げている。	理念の中に、地域との連携や交流についての必要性を盛り込み、玄関や事務所に掲示している。代表者も頻回にホームを訪れ、ミーティングにも参加し全職員で理念に沿ったケアについて振り返っている。朝の申送りでは担当者により、ホームが指針としている教本の音読と併せ、理念について確認し一日をスタートしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは外出時にも挨拶を交わし合う、回覧板のやり取りもする。散歩の帰りや通りかかりの方が立ち寄って下さり世間話も聞く、近隣から農作物のお裾分けも頂く。	町内会に加入し回覧板のやり取りや、広報誌を活用し地域行事の情報収集に努めている。地区の子供会の福祉体験(車イス)の受け入れや、敬老会に出向いたり、老人会のメンバーの訪問で踊りの手ほどきを受け(牛深ハイヤ)家族や地域100名ほどが参加しての法人合同文化祭で披露するなど大盛況であった事が記録物より窺えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議で参加者に理解を投げかける程度になっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会は地域の幅広い代表者様に参加頂き、施設の理念、事業所の目的、入居者に対するケア、事業報告、認知症の理解など説明し、参加下さったからも客観的な意見をお聞きし入居者のケアに繋げている。	定例化している会議には代表家族も参加し、その時の状態を知ってもらう為、毎回入居者の詳細(年齢・介護度・移動手段・入居期間など)を報告している。外部評価については結果を項目に沿って説明し玄関に開示している。参加者より地域の行事やそれぞれの立場で活発な意見交換がされ、口腔ケアの必要性から職員をはじめ参加者に協力歯科医による講義が行われた。	会議に参加されなかった家族へ内容を報告することにより、会議への関心や共有に繋がることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接窓口に行き担当者とは面談又は電話にて相談を投げかけ助言を頂いている。運営推進会議には毎回参加頂きホームの状況、行事など説明、市からは新しい情報、や助言指導を仰ぐ。	運営推進会議にも毎回参加があり、防火法改正やインフルエンザ対策等、安全や健康面について情報や説明を受けている。「不明な点はいつでも来所ください」という言葉を受け、ホームからも気軽に役所を訪れ助言や指導を仰ぎ運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	殆どの職員は拘束に対しては理解しているが全職員正しく理解しているとは言い切れない、ベテランの職員が経験の浅い人に助言しており拘束はしていない。	月1回のミーティングや2か月に1度の法人研修会の中で、マニュアルに沿った勉強会を実施している。全職員が理解し共有に繋げることが課題としている。	事例を通し新任職員にわかりやすく、現任職員には再確認できる研修会により、全職員が共有しケアに取り組むことが必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が正しく理解しているとは言えないが、勤務経験の長い職員が未熟な職員にアドバイスしており、又、申し送りの際も確認し合うなど、拘束防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在一部の職員しか理解していない。研修の案内は来るが参加の希望はない。今後は交替で参加し、全職員で勉強する機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては二人の職員が立ち会いご家族と行うようにしている。不安や疑問点を尋ね、十分説明をなし理解、納得して頂くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会来設時や電話による連絡時、ご意見、要望などお聞き出来るだけ早くその要望等を運営に取り入れ改善できるようにしている。	訪問時や電話連絡の際に意見・要望を聞きとっている。日頃より入居者の報告をするときは家族の安心に繋がるような話題を大切にし良好な関係作りに努めている。家族より預かり金の報告について、記録方法への要望が出され、領収書を提示し説明することで安心・信頼に繋げている。又、入居者の楽しみ支援への要望に対して、今後も畑作業などこれまでの趣味を生かした取り組みに力を入れたいとしている。入居者より卒業小学校の校歌を又歌いたい！という要望に、早速教育委員会に走り資料を集めるなど願いに応えた。	入居時にホームや第三者による苦情相談窓口の説明が行われており、加えて公的機関の説明を行うことで、透明性のある窓口となっていくことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の会議や毎朝の申し送り時に意見や提案に耳を傾け、良い意見は即実行し職員の意欲につなげている。	管理者と計画作成担当者は、定例会議や申し送りをはじめ、日々の会話の中でも意見や提案を受け代表者と話し合いケアに反映させている。又、代表者もできる限りホームに足を運び入居者や職員との交流に努め意見・要望の把握に繋げている。職員から口腔ケアについて研修会を実施しては？の意見を受け運営推進会議に中で実施され参加者にも好評であった事が記録より窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	声かけ労いの言葉をくれ気楽に相談できる環境にある。個々を理解しており、資格取得や研修参加を呼びかけ昇給にも力を注ぐ、個々の誕生日にはプレゼントで祝つてくれる、ミニバレ忘年会を行いストレス解消、親睦に繋ぐ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の日頃のケアについて公正、的確に見つめる一方同法人内では2か月に1回の勉強会(研修)を企画しスキルアップにつなげているまた、積極的に資格取得の奨励も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロック会では3か月置きに勉強会を実施しており職務に支障のないよう交替で参加し、参加できなかった者には、伝達し全員に聞いてもらう他の研修についても定例会時参加した者が伝達している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話を頂いたら、面接に出向しご本人、ご家族の困っておられる事、不安におもってことを十二分に拝聴、必要に応じ幾度か足を運び安心できる関係を作っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見、困り事をおたずねし又ご本人がどのようなサービスを受けるのがいいかを話し合いご家族、ご本人様の納得されるサービスを紹介していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で受けられるサービスと受けられないサービスの違いを十分説明し、ご本人がどのサービスを受ける事が適切かを話あい、ご家族、ご本人に適切なサービスを理解してもらった時点で利用して貰う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い、不意に出て来る言葉に気づき、その言葉を大事に、ご本人の持てる力を把握し、出来ない部分に手を添え人生の先輩として、言葉遣い、ケアも尊敬の念を持って行い、何でも言える雰囲気づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に会いたいと申し出があったり、家族を心配される時はすぐ電話にてご家族に伝え面会をお願いする。誕生会等の行事には案内の電話をなし一緒に楽しんで貰うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があった場合買い物やドライブなど一緒に行く、全体的に四季折々の外出、暑い夏場はアイスクリームツアともし、ショッピングセンターに案内する事もある。	併設デイサービスを利用される知人との談笑や、おやつを共にしたり、家族・親類等の訪問時は居室やリビング・玄関先の休憩所などで大切な方とゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮している。家族の協力により墓参や帰省の他、外泊時はポータブルトイレや布団など慣れた品を持ち帰ることで安心して時間を過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時など団欒の時間にはみんなで集まって食べたり、身近な話、おしゃべりの橋わたしをして皆さんが打溶けて下さるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された場合は、退所先を数人の入居者を伴い、訪問し身体具合を確認し遊びに來られる様をお願いしてる。ご家族にも電話にて様子をきいたりいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族との話、ホームの暮らし過去の生活史などの中から一人一人に応じた暮らし方の希望や意向の把握に努め、希望や意向を尊重するようにしている。	日頃より入居者とは何でも話し合える関係を大切にしている。普段の何気ない会話の中から個々の思いや意向を把握している。家族や親類・知人など来訪された方々からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史や馴染みの暮らし方など、ご本人やご家族からお聞きし以前利用されていたサービス内容等などの情報収集を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活チェック表をもとに一人々の健康状態を細かく観察記録し、毎日の申し送り時に報告を行い全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族希望を聞きその事を職員で検討しご本人の計画に取り入れ、楽しみながら又、機能の維持、アップを目標に作成している。	入居者を担当制とし日常の関わりや傾聴の中で受け取れる思いや希望、又、家族からは訪問や電話連絡時に要望を聞きとっている。ミーティングではそれらの意見を十分取り入れプランを作成し、納得のいく説明や話し合いの時間を持っている。見直しは6か月を基本とし、入院した際は医療機関との担当者会議を開き医師・看護師・PTなど関係者を含めた話し合いによりプランを作成するなど個々に応じ随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿ったケアを行い、きづいた事や本人の状態に変化が生じた場合は、ご家族に相談を持ちかけ全職員で検討し計画を変更するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の状況が変化した場合はその状況に合わせてサービスを変更し、ご本人にふさわしいと思われるサービスを行うようにしている。デイサービスなど希望があれば取り入れていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域敬老会、福祉グループ文化祭での歌の発表、デイサービスとの合同運動会、クリスマス集会や慰問の演芸会・保育園時の運動会に参加し楽しんで貰っている。其のことが気分転換、活力につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望の病院で受診してもらっている。ご家族の受診介助が出来られない方はホームが受診を介助する。	本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。ホーム協力医をかかりつけ医としている入居者が殆どであり、定期往診の他、医師の小まめな訪問は入居者や職員の安心に繋がっている。又、他の医療機関をかかりつけ医としている入居者へもホームで対応している。専門医療については基本的には家族対応としているがホームでも柔軟に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職はいない、毎日血圧、脈拍、顔色、表情を観察を行い異常を確認したら、先ずかかりつけ医院に電話にて相談、受診が必要な時は即、受診介助してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合ご家族の希望される病院に入院して貰う。時々面会にゆき看護師などより病状・経過を聞く一方、相談員の方とも会い情報のやり取りをなし退院の時期を待つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、常に医療行為が必要になった場合のホームの方針を入居時に説明をなしておく。実際に医療行為が必要になった場合はご家族、主治医、と相談し医療機関にお願いする。	重度化や終末期の対応として、医療行為が常時必要になった場合は、家族・主治医と相談し医療機関への転院としている。今後は入居時にホームの方針やできることについて説明を行い本人・家族の安心に繋がりたいとしている。	ホームの方針については職員間でも十分共有しホームのできる対応について(急変や応急手当など)の研修会の実施も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作ってあるが利用者の急変や事故発生時に備え応急手当や初期対応に対し軟弱と思われる。勤務(経験)の浅い職員が半数であるため、定例のミーティング等で実習を取り入れていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループでの昼夜間を想定した入居者も参加する避難訓練の計画はあるが今年度はまだ実施していない。	今年度避難訓練の計画を立てたが今のところ実施に至っていない。非常災害対策としてマニュアルや入居者避難要項を作成している。	運営規定に沿った防火訓練が地域の協力体制を得て確実に実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人柄・思い・考えを尊重し、自尊心を傷つけないよう、不快な思い与えないよう声かを行なっている。個人情報の漏洩には特に注意している。	入居者一人ひとりのこれまでを大切に、尊厳に配慮したケアを全職員で共有している。排泄支援では、済まれたら合図として鈴で職員に知らせるなど個々に応じ支援している。又、居室のポータブルトイレの本体は、日中布をかけ目立たなくするなどプライバシーに配慮した取り組みである。入室の際のノックや声掛けも確認できた。	食事中は職員の見守りも十分であり、エプロンの使用方法については検討いただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方には必要に応じて筆談、ジェスチャーなど行なう、表情や動作を観察することで職員が意志表示を促し、ご本人希望、思いを教えて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候、体調などの支障がない限り、なるべくご本人の希望を聞きながらペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理容を利用されている。外出時や誕生会、敬老会などのイベントに出席時などお化粧やお洒落着の手伝いをし、日々の身だしなみ、髪の手入れ等に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ旬の食材を使い、食べたい料理を聞き、その料理を摂って貰いながら話題も豊かに楽しく食事ができる。昔懐かしいメニューに心がけている。下膳やテーブル拭き等入居者と一緒にもある。	入居者の好み・希望の郷土料理(すらっぽだご汁等)を旬の食材や菜園で収穫した野菜、差し入れ食材を使いメニューを作成している。入居者も献立のアイデアやテーブル拭きなどできることに参加している。散歩の途中収穫したからし菜の漬物や盛り付けにも工夫された料理を、職員も一緒に味を尋ねたりしながら楽しい笑い声の響く食事時間であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないよう、職員で知恵を出し合い、アドバイスをしながら作るようにしている。水分は摂取量が少ない方には全職員が把握できるようチェック表を使い必要量を摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助が必要な方には洗面所まで誘導声かけ、出来る部分は貰い、出来ない部分を手伝っている。一人で出来る方には声かけのみしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンを把握し表情・所作など観察し職員で共有する。トイレ誘導にも出来る部分はお願いし出来ない、出来ない部分に手を添える。	排泄チェック表や職員の観察や気づきを共有することにより、個々のパターンの把握に努めトイレでの排泄を支援している。プライバシーにも配慮しながら本人の困難な事に支援し自立に繋げている。夜間のみ使用されるポータブルトイレは気持ち良く使用できるよう、昼間は洗浄・日光にあて清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的又は必要と思える時、水分摂取を声かけ介助し摂っていただくようにしている、尚、繊維の多い、排便につながり易い食品を出したり、歩行の出来る方は散歩に誘う、全体的には毎朝体操をしてもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を聞き好きな時間に入っていたくようにしている、又どの職員が介助しても同じ様な気持ちで入ってもらえる様個々のマニュアルを作っている。	週3回～4回の入浴を午前・午後で支援している。又、汚染時や必要に応じ随時対応して個別の入浴手順マニュアルによりその方に合った寛げる入浴に繋げている。季節風呂（菖蒲・ゆず）も入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズム、身体状況に合わせて寝たくなれば、寝ていただくようにしている。休息されたい時は心おきなく安心して休んでもらえるように声かけする。無理強いはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はほぼ理解できていると思えるが、月例のミーティングでそれぞれの内容等を再確認し職員で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力出来る事を活かし食器拭き、洗濯物たたみ、弱い方のお世話など手伝って貰う、ピアノ好きな方には演奏、野菜作りの好きな方には指導、歌の好きな方には心おきなく歌って貰い気分転換、元気の源としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望によりお買い物やドライブ、野山、近くの施設に案内する。全体的には紅葉見物・花見・ショッピングセンターでソフトクリーム食べてもらったりもする。	自然に恵まれた敷地内の散歩や散策・菜園の手入れ、併設施設との交流を日常的に行なっている。個々の希望に応じドライブを兼ねた買物や、地域ショッピングセンターでのおやつタイムは入居者の楽しみとなっている。日々の活動の様子は小まめに写真撮影し掲示されておりホームの取り組みが窺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で財布を持っておられる方があり、外出の行事等で買物をされご本人で支払いをさせたり品定めはあ本人で支払いを職員に任せられる方もあり、神社参り時お賽銭をあげたりもされる方あり、見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があったらすぐ先方と話ができるようお手伝いをする。職員でご家族に用事があり電話する際、ご本人と代わり話してもらうこともあるが手紙のやり取りをされる方は今はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し清潔保持に努めている。便所、浴室などと明記し混乱を少なくして使えるようにし玄関や食堂など季節の花を飾り季節感を体感できるよう、食堂には透明カーテンで明るくしている。時節の飾り物も、し記憶を引き出すようにしている。	日々の掃除や換気が行届き、ホーム内外季節の花々や、植物・写真の掲示など随所に職員の心配りある空間である。浴室・トイレも清潔に保たれ、特にトイレは安全性ある掃除液を使用している。玄関・リビング・食堂・デッキ・廊下など入居者がゆっくり寛げる場所が設けられ、居心地良さに繋がっている。	脱衣所も広さにゆとりがある為、浴室に置かれている品々を移動することで、安全面やスッキリとした空間となる事が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブル、テレビ、プレーヤー新聞、楽器、ボールなどレクレ道具を置き、好きな所で好きなことをしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮	ご家族にお願いし馴染みの家具や写真など持参して貰い自宅と変わらないよう、ご自分の家と言う感じで使って貰っている。ご本人で私の家と言われる。入室する際はお断りし入るようにしている。	庭先や山々・菜園などの居室からも季節を存分に味わうことができる居室には、家族の協力によりテレビや三面鏡・カレンダー・使い慣れた置き時計・趣味のダンス衣装や塗り絵の作品掲示など個々のこれまでを大切にした居室作りを家族と職員が一緒に支援していることが入居者の穏やかさより窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は段差をなくしトイレや自室等しるしよくわかる様安全に移動できる様、その方にあった出来ることを見極めた環境づくりに心がけている。		